

# コンパス薬局横浜西 スキルアップ勉強会

2018.9.21 佐藤

## 第 136 回 維持透析下の二次性副甲状腺機能亢

### 進症治療薬『オルケディア錠』

参加者:小西、高柳、加納、猪野、佐藤

#### 【特徴】

カルシウム受容体作動薬として既に発売されているレグパラ錠を改良して開発されたオルケディア錠。レグパラ錠は服用により悪心・嘔吐、胃不快感、食欲不振、腹部膨満などの上部消化管に対する副作用の発現が知られ、また代謝には主に CYP3A4 が関与しているため、CYP3A4 阻害剤等との併用で、レグパラ錠の代謝が阻害されて血中濃度が上昇する可能性がある。

これらの欠点を改善して発売されたのが、オルケディア錠であり、いま臨床ではレグパラ錠からオルケディア錠への切り替えが進められている。

#### 【添付文書情報】

[http://www.info.pmda.go.jp/go/pack/3999044F1024\\_1\\_03/](http://www.info.pmda.go.jp/go/pack/3999044F1024_1_03/)

#### 【レグパラ錠・オルケディア錠の対比】

	レグパラ錠	オルケディア錠
対応用量	12.5mg 錠 25mg 錠	1mg 錠 2mg 錠
開始用量	血清カルシウム濃度が 9.0mg/dL 以上	血清カルシウム濃度が 8.4mg/dL 以上
増量の際	増量幅を 25mg として 3 週間以上の間隔をあける	増量幅を 1mg として 2 週間以上の間隔をあける
休薬の目安	血清カルシウム濃度が 7.5mg/dL 以下	血清カルシウム濃度が 7.5mg/dL 以下

#### 【考察】

オルケディア錠はレグパラ錠と比べて、副作用の発生頻度が少なく、また他剤

との相互作用も少なくなっている。また開始用量の設定や増量する際の間隔においても、オルケディア錠の利便性を感じることができる。この利便性から臨床ではレグパラ錠からオルケディア錠への変更が進んでいるのもうなずける。

**【質疑応答】**

Q. 維持透析下の二次性副甲状腺機能亢進症として一番の問題点は、何か。

A. 皮膚の痒み、イライラ感、骨代謝の回転が高くなることによる骨折、異所性石灰化、動脈硬化などが起こる可能性がある。

Q. レグパラ錠を高用量で服用中、オルケディア錠へ切り替える時はどの用量で開始するのか。

A. オルケディア錠は必ず 1mg か 2mg で開始する。

Q. レグパラ錠を高用量で服用していて、オルケディア錠を 1mg に切り替えても特に問題はないのか。

A. レグパラ錠を 50mg で飲んでいた場合、オルケディア錠を 1mg にしても数値的には大きな変動は見られていない。

以上